

2024年度 聖隷こども園桜ヶ丘 自己評価結果

【聖隷こども園桜ヶ丘 教育・保育理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章に則り、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指します。

- *愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- *一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- *自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- *在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する。

【園目標】

- ・子どもたち一人ひとりが愛され、受け入れられて、愛することを知る
- ・遊びや体験を通して心身を育て、子どもたち一人ひとりの個性をのばしていく

聖隷こども園桜ヶ丘では、「保育者の為の自己評価チェックリスト～保育者の専門性の向上と園内研修の充実のために～」を使い、職員が自己評価を行いました。自己評価結果から見えてきた園としての課題を職員間で共有し、教育・保育の向上の為に次年度につなげていきたいと思えます。

評価項目別の達成および課題状況項目	自己評価・課題
第1章 総則 1.教育及び保育の基本と目標	・子ども一人ひとりの発達や個性を大切に、安心できる環境を作ったり、意欲的に遊べるような援助をしたり、自己を十分発揮できるようにするためには、保育を振り返り、計画的に環境を構成するように務めることが大切である。 ・乳幼児期の教育及び保育で生涯にわたる生きる力の基礎が培われる重要な時であることを再確認した職員が多い。今後も保育指針や保育要領に目を通して理解を深めていく。

2.特に配慮すべき事項 (1) 教育及び保育の配慮 (2) 健康支援 (3) 食育 (4) 特別支援教育・障害児保育	・ 0 歳児から就学までの一貫した発達の連続性を考慮していくには、子どもの発達段階を理解して園全体で保育していくことが大切である。 ・ 子どもの健康状態を常に把握していく。感染症の疑いや怪我など自分ひとりでは判断に迷うことは他職員と相談して適切に対応していく。また、必要に応じて保護者へも連絡し安全と健康を守れるようにする。 ・ 食育計画が活かされるように管理栄養士と連携をとり、保護者に発信していく。 ・ ランチタイム制の食事だからこそ、食事の雰囲気配慮し、マナーを伝えることも職員間で連携をとっていく。 ・ 特性のある児の個別計画、支援が必要であることを再確認した。養育機関との連携を取り情報交換をし、専門的な知識を学ぶ。 ・ 職員が適切な対応や、保護者支援ができるように、今後も園内研修や外部研修に参加し、正しい知識を持つようにしていく。
第2章 1. 子どもの発達	・ 発達を踏まえた環境設定を意識している。 ・ 今子どもが何に興味を持っているか、どのようなことに関心があるのかをタイムリーにとらえられるよう姿をよく見ていくことを心掛けている。子ども自ら楽しんで関われるよう玩具や手作りおもちゃを用意して環境を整えている。 ・ 保育者自身も人的環境のひとつであることを意識し、声掛けや援助をしていく。 ・ 子どもの主体性とは何かを学び、子どもの姿をとらえて遊び込めるような環境を提供していきたい。

第3章「ねらい」及び「内容」 1. 保育内容「健康」 2. 保育内容「人間関係」 3. 保育内容「環境」 4. 保育内容「言葉」 5. 保育内容「表現」	・登園時及び保育中の健康状態の観察を行い、異常が見られた時には適切に対応をしている。 ・高齢者をはじめ地域の人々などに親しみを持ち、交流する機会を保育に取り入れている。 ・「環境」では、自然を観察したり様々な物や事に触れたりする中で美しさや不思議さなどに気づき「どうして」「なぜ」を一緒に考え豊かな感性が育つようにしている。飼育を通して命の大切さも伝えている。 ・子どもの表情と姿をよく見て、その場に適した言葉かけをするよう心掛ける。子どもに分かりやすく、暖かく美しい言葉で子どもに話しかけることをしている。 ・廃材等で作ることは十分楽しめたが、音を奏でる表現遊びの機会が少なかった。
総評	・乳幼児期が子どもにとって人格形成や、生きる力などの基礎力を培う最も大切な時期である。そのためには、子どもの最善の利益を柱に、これからも環境構成に力を入れ、子ども一人ひとりを大切に保育ができるように、職員間で連携を取り、保育の質の向上に努めていきたい。 ・自己評価の結果から見えたことは、職員間で共有して次年度に活かしていく。